

第34号



2013. 7月



発行 城里町社会福祉協議会 ☎ 029-288-7013 FAX 029-288-7021 ホームページ <http://www.shirosato-syakyo.com>  
編集 広報ボランティアグループ



青山花しょうぶ祭り  
にぎやかなひととき

今年も青山花しょうぶ祭りが6月22日(土)23日(日)に開催されました。22日の開会式では阿久津町長から「皆様の協力で今年もしょうぶ祭りが開かれ、県内外からも多くのご来訪をいただき感謝いたします。」と挨拶がありました。

花しょうぶ保存会会長の山崎さんからは、保存会の人達の紹介と年間を通しての花菖蒲の管理の大変さ、来年はもう少し花菖蒲の植え付け面積を広げたいと挨拶がありました。

年々花見客が増え、2日間の祭りの最中は、ボランティアグループによる色々な演出があり、地元からはつくしんぼ音楽隊、商工会フラダンス、桂会民謡、トッピスターバンド、福島からは三味線演奏などを披露して花見客の皆様を楽しませてくれました。

今年の第1花しょうぶ園は、遅霜の影響を受けて、花の咲きは5分咲きでしたが、第2花しょうぶ園は満開で、多くの方が第2花

しょうぶ園まで行き、花を楽しみ、同時に好みの花を選び買いし、その後、お茶処で抹茶を飲みながら一休みしていました。つくしや、商工会の店で手作りの小物や、路地物の野菜などをお土産として買って帰る方も多くいました。

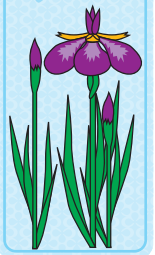
来園者の中には、「道に迷って苦労しました」「今年は無事にたどり着きました」など少し分かりづらい場所への感想を話していく方もいました。それでも多くの方が見に来られるのは、品種の多さと、凛とした美しさの中にも儂げな趣をただよわせている姿に魅了されているからなのでしょう。



カエルさん、花菖蒲でかくれんぼ!!

# 美しい花を咲かせる為に

## 青山花菖蒲園の裏方



15年前、山崎秀雄さんの趣味から始まり、花しょうぶ祭りが開催されるまでになった青山花菖蒲園。来園された方が「きれいだね、又来たいね」と喜んでもらえる事をモットーに花を咲かせる為には、どんな事をしているのでしょうか。

園には花菖蒲を植えてある休耕田が3ヶ所約4反(約4千平方メートル)あり、70種類約1万5千本の花菖蒲が植えてあります。これをすべて管理するのが花しょうぶ保存会(代表山崎秀雄さん)12名です。



保存会の皆さん

花菖蒲は梅雨の花で、雨の中に佇む姿はとても風情があります。花の命は短く2日で終わってしまいます。又、花卉がとても薄いので

雨や風に弄ばれると、更に短くなります。そんな花を祭りの期間中、見事に咲かせる為には、年間を通して、大変な作業がありました。水を好む植物なので、水の管理は、年間を通し常に気を使います。

2月上旬、冬枯れした葉を野焼きし、株の手入れを始めます。

4月上旬、苗を移植。この頃から雑草も盛んに出てくるので除草作業が始まります。株のない所は、草刈機や耕運機等で除草ができますが、株の中はそうはいきません。草1本1本を手作業で取り除きます。作業はずつと中腰で行います。この除草が1番大変で、根

気のいる作業だそうです。草は、後から後から生えるので除草作業は、数回行われます。



たいへんな除草作業

雑草の成長も早いのですが、この時期は、株の成長も早く、見る間に葉が伸びてきます。水切れに注意しながら、追肥や殺虫剤等の散布もしていきます。



追肥作業

6月に入ると木道を設置したり、テントを設置したりと開園の為の準備を進めます。この頃から花が咲き始めるので、毎朝花がら摘みを行います。この作業のおかげで開催期間中は毎日、きれいな花を楽しむ事ができるのです。

7月に入り、後かたづけが終了すると、株分けの作業を行います。株分けをし「きれいな花をありがとう」とお礼肥を施します。これによって株は活力を与えられ、来年に向けての力を蓄えます。

今年には園内の花菖蒲すべてを株分けし、植えかえ作業をするそうです。

新たな力を蓄えた花菖蒲が来年、どんなきれいな花を咲かせ私達を出迎えてくれるのか、今からとても楽しみです。

この後は、水の管理に注意し、追肥を施しながら、越冬させ、2月の作業へと続いていきます。

きれいな花の裏には、保



木道の設置

存会の人達の大変な苦労がある事を今回、改めて知りました。暑い日中、足元がぬかるむ休耕田の花菖蒲の株の間を、ずつと中腰で草を抜いていた保存会の皆さんには、本当に頭の下がる思いです。ご苦労様でした。



当日の早朝の花がらつみ

きんごんごんごん

学卒、就農に活路を拓いた

小林 大介・今日子さん(阿波山)

好きだから始めた

「農業が好きでした。学生の頃から農業に関心があり、夏休みに北海道で農業体験をしました。当時今後農業が大切になるという予感もありました」小林さんは農業を始めた動機を語ります。

確かに当時、世界的な人口爆発による食料危機などの話題があつた時代でした。卒業後、同じ農場で2年間働いたとのこと。有機栽培を大規模に実践しているところで、常時、研修生、パートが10名ほど働いており、レタス、大根、ミニトマトなどを大量に作り全国に販売していたとのこと。その農場で小林さん



小林さんご夫妻

んは、事業としての農業を学び、同時に志を同じくする伴侶にも出会えた、と言います。

当初、栽培と販路に苦労

平成18年有機栽培による農業を阿波山で始め、現在、畑2.2ヘクタール、田20aで、野菜を50品目以上と米を栽培。当初、作物の不出来に苦労したそうです。北海道で学んだ事が、土地柄、気候が違う城里では通用しにくかったのです。でも栽培については、有機による安全で美味しい作物をつくるというこだわりは持ち続けたと言います。販路は、イベントやチラシを利用する、大型店に売り込む、など苦労しました。3年を過ぎたころから作物の味の良さがクチコミで伝わり、個人客が増えてきたと言います。

200件以上の個人宅・レストランに配送

現在、主に東京、神奈川



3種のズッキーニ 2週1回、又は月に14回、5品目の作物をセ

ットにして配送しています。モットーは、旬の一番美味しい時期に顧客に届ける、ということ。そのために、苗植え、種まきの時期など顧客への配送時期に合わせた作物作りに苦労しているとのこと。一方、小さい虫食いや不揃いなどを顧客は認めてくれているそうです。

田舎には、将来を拓く可能性が眠っている

世間では、田舎には働く場所がないと言います。しかし、人の生存に一番大切な食を生み出す田や畑はたくさんあります。放棄地が増大する一方、食の安心を求める消費者は増えていきます。小林さんは、消費者の意に応じるという形で、今後の農業のあり方に一つの可能性を示してくれているように思われます。

つくしの四季

いつもつくしの四季を読んでいただきありがとうございます。

今回は、つくしの行事とは関係ありませんが、最近僕が楽しかった出来事を書きたいと思います。

5月28日(火)・29日(水)と2日間、ヘルパーさん1人と友人4人と母と僕の7人で横浜へ電車で行ってきました。長年行きたいと願っていた夢を、ようやく叶えることができました。

まず、横浜中華街と山下公園を散策しました。お昼はコース料理で、円卓を囲んで皆で食べました。特にエビチリがおいしかったです。山下公園では、有名な赤い靴の銅像を探し、30分ぐらい歩きまわってしまいました。園内には、銅像の他にもバラやあじさいなど、季節の花が咲き誇っていました。

天気心配でしたが、なんとかもち、富士山までは



(加藤直)

見れませんでした。みなとみらいの景色は楽しめました。

行く先々では駅員さんが乗り降りや案内まで親切にしてくれました。1人の力では出来ないことの方が多けれど、色々な人から助けられることでなんでもできる自信ができました。こうして2日間過ごしてみても、まさかあきらめていた旅行に行けるとは思いませんでした。最初から無理だとあきらめるのではなく、挑戦することに意味があると思えます。これからもひとつずつ夢を実現していきたいです。

配食サービスは、町内に住む一人暮らしの高齢者と、高齢世帯の方を対象に行っている事業です。常北・桂・七会地区で行っている様子を紹介いたします。

配食サービス事業は、毎月4～5回、地域のボランティアの方が食事を作り、届けてくれる事業です。日は地域によって異なり、

常北地区 木曜日 昼  
桂地区 金曜日 昼  
七会地区 木曜日 夕

0円で、希望される方は町社会福祉協議会、またはお近くの民生委員に申し込んで下さい。

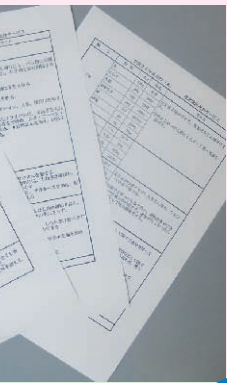
### 常北地区

常北地区では、毎週木曜日に配食サービスを行っています。

調理は「つくし」通所者の保護者と、ボランティア7



通所者の作った上げけと献立表



メニュー表

～8名で、保健センター内の調理室で作ります。

午前9時に集まり、メニューにそって

手際よく作業にかかります。毎回約

90食分を調理するのですから大変ですが、それでも11

時頃には全て完了。お弁当に「つくし」通

所者が献立表を貼り、自分たちで描いた絵

の上げけをかけて出来上がります。

10時50分には配食担当の方が集まって来ます。

その日によっては、調理を行った方も配達に加わる

こともあります。

配達は、61名のボランティアで構成されています。

ティアで構成されています。

### 桂地区

桂地区では、「桂うぐいす会」のメンバー103名で、毎週金曜日に調理、配達を行っています。

またメンバーは調理担当者として、配達担当者として分かれています。これは年度初めに、社協で作成する年度の地区当番表に基づいて、それぞれが責任を持ってきちんと出勤しています。

調理は65名で8班に分かれ、各班が年間6回当番が回ってきます。

毎回午前9時には桂公民館の調理室に集まり、メニューに沿って分担も決まり、調理が始まります。ご飯は、3升炊

きの大きな炊飯器で1度に炊き上げます。炒め物や厚焼き

が、玉子などを作るのは大変です。1度には出来ないの

で、何回も何回も同じ作業を繰り返します。それでも手際よく、慣れ

た手つきで出来上がったものから、順番にお弁当に詰めていきます。

10時30分頃には、全て出来上がり「本日の献立」を記した上げけをかけた完了、約50食分が出来上がります。



配達かご  
お弁当は、地域名を黄色い配達力ゴに入

れられます。

同時進行で調理器具、ガス台、シンクなどの洗浄、後片付け、床の掃除など、その手際の良さ、連係プレーには驚くばかりです。

「こんにちは！」の元気な声と共に、その日の配達担当のメンバーが、紺のエプロン姿で次々と来られます。

そして自分の配達地域名の書いたカゴを受け取り、出かけていきます。

配食担当の方は、現在38名います。そのうち男性が25名と多いのが特徴です。全体を5



調理室での作業

お弁当



配達に出発!!

なかに留守のお宅もあり、全部配り終わってからの再度訪ねて行き、元気な姿を見てほっとするなど苦労もありますが、喜びもあるようです。こうして、栄養バランスのとれた食事を提供しながら、利用者の安全を確認することも大きな役割です。

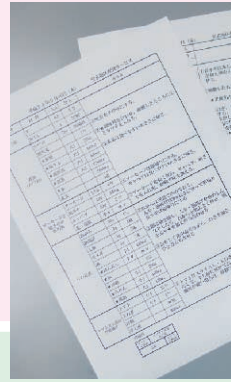
また、「万一、災害などがおこった場合、緊急等の炊き出しなどにも役立つことが出来るのではないかと、一杉常子代表は語っていました。

す。石塚・那珂西・小松・青山・古内等11地区に分けられ2人1組で配り、月1回の割合で当番が回って来ます。現在の利用者数は86名です。

配達担当者は、ひとつひとつ丁寧にご利用者の元に手渡しで届けます。この時に、安否確認をし、何かあれば連絡事項として社協に伝えます。

「こんにちは。お弁当を届けに来ました。暑くなってきましたね。お変わりありませんか」そんな声かけからはじまり、時にはちょっと長居を。ボランティア同志のコミュニケーションはもちろん、利用者とのコミュニケーションもとても楽しいものです。

利用者さんからは、「木曜日が楽しみ。待ち遠しい。私達の年齢に合った固さや味付けが施されていて、一体どんな人が作っているのかと考えてしまいます。お弁当は最高。おいしいです。ずっと続けて欲しい」との



声がかれました。

片づけ、清掃、配達など全てが終了した午後、調理に携わった方々で次回のメニューを考えます。栄養のバランス、旬の食材、地産地消、そして何より楽しんで食べてもらえる様、食べ易さや味付け等、色々と工夫をし、社協職員の栄養士のアドバイスも受けながら、決めていきます。

ここで決定されたメニューは、桂地区、七会地区にも送られ、町として同じお弁当が配られる様になっています。

### 七会地区

七会地区では、「幸の会」「つくしの会」「虹の会」の3つのボランティア団体が、七会保健福祉センターで配食サービスを行っています。

「幸の会」は第2・4木曜日にいきます。12名の女性会員が第2と第4のグループに分かれ、調理を行います。



出来上がったお弁当

配達は更に男性3名が加わり、2人1組で配ります。当日は午後1時30分に集まり、メニューに沿って皆でワイワイ楽しく調理、盛り付けをし、3時30分から4時頃までに夕食として届けていきます。

「つくしの会」では、第3木曜日、14名で調理、配達をします。また「虹の会」では第1木曜日、23名で調理、配達を行っています。

対象が70歳以上の高齢者なので、やわらかく煮込む、そして「おいしい」と言ってくださる様、家庭の味を出すことに気を付けています。

七会地区の配食サービスは、昭和61年に始まります。ある時、七会村役場の職員が一人暮らしの高齢者宅を訪問しました。そこで目にしたのは、菓子パン1個で夕食を済ませている姿でした。

ショックを受けた職員は、さっそく親しい仲間に呼びかけ、実状を話し、自分た

届ける際には、常に笑顔で、庭の草花を褒めるなど、ちょっとした会話を楽しむようにしています。また待っていて下さったり、「おいしかったよ」と言われると、逆に嬉しくなり元気をもらうこともしばしばです。こうして安否確認も兼ねて、楽しく活動しています。

七会地区の配食サービスは、昭和61年に始まります。ある時、七会村役場の職員が一人暮らしの高齢者宅を訪問しました。そこで目にしたのは、菓子パン1個で夕食を済ませている姿でした。

ショックを受けた職員は、さっそく親しい仲間に呼びかけ、実状を話し、自分た

この力で何か出来ないかと話し合いました。そして皆で材料を持ち寄り、食事を届けたのがはじまりです。

最初は4人でした。以来、紆余曲折もあり、徐々に改良されながら、今日まで続けてきました。



配食サービスでは、お弁当を配達するボランティアを募集しています。地域貢献にご協力ください。ご希望の方は、社会福祉協議会までご連絡をお願いします。

社会福祉協議会  
029-288-7013

# 男塾・送迎事業に参加

## 〜地域活動支援センター〜

平成25年4月から地域活動支援センター通所者の送迎用車両に、送迎車両補助員として「男塾」の会員が交代で同乗することになりました。これはあくまでも「有事の際の対応策」のひとつであり、通常は運転することはないとのことです。

これまでは、社会福祉協議会職員が2名体制で運行していましたが、職員みでの対応がだんだん難しくなってきたため、社協ではこれからの方策を考慮していました。ちょうどその頃、男塾の年次総会があることを知り、難しい問題ではあるけれども相談してみることにしました。

その結果、「初めてのこともあり、また月曜日から金曜日まで毎日、しかも雨風関係なしなので果たして続けられるかどうかとても不安だ」という意見があっ

たようでしたが、結局「いや、何事もやってみなければわからないだろう」という意見に落ち着いて補助員を受けることになったようです。

現在、16名の男塾の方々が月曜日から金曜日までの5日間、ローテーションを組み、毎日午後3時30分から5時ごろまで送迎車両に同乗しています。

運転に従事する職員の方にお話を伺ったところ、「顔見知りの方も多いですし、年齢も近く、みなさん穏やかな人達ばかりで非常に心強く思っています」とのことでした。ただ、補助員はあくまでも有事の際の対応が最大の目的なので、原則的に介助はできないことになっていくとのことでした。その辺りのところが何とも歯がゆく思っているようです。

補助員としての活動もはや3ヶ月、男塾の皆さんは支援センターの通所者とも顔なじみとなり、挨拶を交わすようになりました。何事もなくこの送迎が長く続けられるといいですね、とも話していました。

毎月それぞれに名前が入った日程表が配布されており、これなら誰が、いつ同乗しているかまで把握することができ、管理体制もすっかりしているなど感じました。

こうして男塾は活発なボランティア活動を多方面に展開しています。これからますますのご活躍を期待しています。



いざ、出発!!

# よさこいの仲間たち

5月19日、城里町地域活動支援センターの通所者、保護者、職員そしてボランティア、総勢32名が大子町で開催された第10回常陸国よさこい祭りに参加しました。ボランティアは月に2回夜の練習、通所者達は作業の後にほぼ毎日踊っていましたので練習は十分です。当日は天気にも恵まれ、「つくしYOSAKOI城里」の仲間たちはマイクロボスに乗って朝9時に出発しました。



最初に踊る場所は、袋田の「ホテル豊年万作」の駐車場。他の団体はもう到着していて各々の待機場所へ掛け声を出しながら練習をしていました。よさこいソーランの雰囲気ですでに盛り上がっています。気合いでは負けていません。例年使っている大道具の魚



よさこいの仲間

も今回はきれいな鱗が付いてリニューアルされています。さあよいよよ本番。みんなそろって大きな声で「お願いします」と挨拶をして踊り始めました。晴天の下、踊る人、旗を振る人、魚を操る人、背景の幕を広げて保持する人、よさこいの仲間たちそれぞれが役割を果たし、力いっぱい動き回りました。そして踊り終えたときにいただいた周りからの大きな拍手。やはり、今年も来て良かったと感じました。その後、常陸大子駅近くのメインステージでも踊り、他のすばらしい演舞も鑑賞し、充実した一日を過ぎました。

### ご存知ですか？ 高次脳機能障害

交通事故や転倒などによる外傷性脳損傷や、脳卒中・脳炎・低酸素脳症などの疾患により、脳が損傷を受け、記憶・注意・感情などの「高次のな」脳機能に障害が現れることがあります。

これらの障害を「高次脳機能障害」といい、生活や仕事に支障が出たり、対人関係に問題が生じます。

この障害は外見上ではわかりにくく、周囲の理解を得られにくいという特性があります。

#### 高次脳機能障害の主な原因

- 脳血管障害
  - ・脳梗塞・脳出血・くも膜下出血
- 外傷性脳損傷
  - ・交通事故・転倒・転落
- その他
  - ・脳炎・低酸素脳症・脳腫瘍

#### 高次脳機能障害の代表的な症状

○新しいことが覚えられなくなる。

○気が散りやすく長く続けられない。

○段取りよく仕事ができなくなる。

○ささいなことで怒ったりイライラする。

○同じことを何度も質問する。

○思い通りにならないと大声を出す。

その他にもさまざまな症状があります。ご本人、また周囲の方でお気づきの点がありましたら、専門機関へお問い合わせください。

高次脳機能障害は誰にも起こりうる障害です。1人で悩まないでお気軽にご相談ください。

#### 【相談先】

茨城県立リハビリテーションセンター  
電話 0296-78-2605  
(高次脳機能障害者支援相談専用ホームページ)  
<http://www.pref.ibaraki.jp/hoken/koujinou/>

(茨城県高次脳機能障害者支援情報サイト)

### 生活福祉資金貸付制度のご案内

茨城県社協が実施機関で町社協が相談窓口となり、必要な相談援助と貸付を行うことにより、安定した生活を送れるようにすることを目的とした制度です。

○貸付対象世帯(一人個人の貸付ではなく世帯全体の貸付となります)

・65歳未満低所得世帯や障害者世帯

・介護を要する高齢者が属する世帯(65歳以上)

※所得基準、世帯構成や年齢人数により異なりますが、おおむね生活保護法にいう生活扶助基準の1.7倍以内

#### ○貸付金

・総合支援資金 生活再建のための貸付支援

・福祉資金 技能習得の為の経費、障害者用自動車購入費用等

・教育支援資金 高校・大学・専門学校への就学に必要な費用  
貸付内容によって貸付上限額や償還期限等貸付基準が違いますのでお問い合わせ下さい。

029-288-7013  
城里町社会福祉協議会

### 広報ボランティア募集

一緒にボランティア活動を楽しみましょう。

#### 〈活動と募集内容〉

○年4回発行する広報紙の取材・校正・編集を行います。

○1回の発行で3〜4回の編集会議を行っていただきます。

○研修会を行い、ボランティア同志の親睦を深めています。

○老若男女は問いません。カメラが好きな方、写真を撮るのが好きな方歓迎します。



#### お問い合わせ

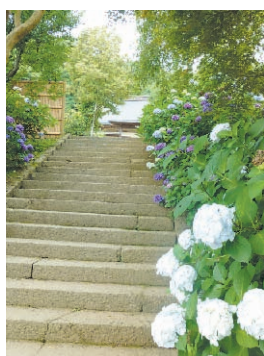
029-288-7013  
城里町社会福祉協議会

### しろうさと 瑞雲寺龍谷院

龍谷院(上阿野沢)の参道中段には山門があり、石段の両側には数十種類のあじさいの花が彩とりどりに咲いています。「花の寺めぐり」の一番札所としてあじさいをさらに増やしています。

本堂の左手には、観音堂があり、千の手と千の目を持ち、無限の慈愛を施すありがたい千手観音像が安置されています。

今年初めて行灯まつりが行われました。2日間ですが、大勢の人達が訪れました。車社会の現在では石段をのぼることは、あまりない様ですが、あじさいの花の季節は花を愛でながら、参道の石段を登り、山門をくぐって本堂に参詣するのも良いと思います。



わが町の  
おわめか元気さん  
30

鈴木千代子さん 95歳  
石塚



千代子さんのお住まいは娘さんのご家族が営む、小貫内装表具店の敷地の中に

園部文衛門さん 90歳  
登志さん 90歳  
上入野

文衛門・登志さんは息子さんの家族と5人で暮らしています。別棟にお孫さんの家族3人が住んでいます。「8人家族で暮らしているので幸せです」と笑顔で話されました。文衛門さんは昭和23年に復員され、翌年に登志さんと結婚しました。2人で農業に励み、牛蒡・椎茸・胡瓜・三つ葉のハウ

有ります。

年齢を感じさせない千代子さんの健康状態は良好です。2年前に白内障の手術をされてからは、視力も快復し、炊事、洗濯と身の回りの事は自分で済ませていきます。別棟に住む娘さんの手作りの総菜が楽しみとの事です。

50代の頃は民謡をやっていました。謡うだけでは

ス栽培を手掛け、先進地の視察をし努力を重ねました。地域では、区長、農協理事、消防分団長、土地改良

事、町菊花会会長として貢献されました。現在は、登志さんと2人スポーツを楽しんでいます。文衛門さんはクロッケー・ペタンク・グラウンドゴルフの公認審判員として活躍しています。

早寝早起きをして健康を保ち、野菜づくり、屋敷の

なく、お囃子の中の締太鼓を担当。又法被姿で山車に乗り、祭り太鼓を叩いていたそうです。

週2回のデイスーパーでは、施設のなかに手芸クラブがあり、お仲間のみなさんとマフラーを編み、「山桜」で販売をし、売り上げは社会福祉協議会に寄付をしました。

今が一番幸せですと話される千代子さん、これからも心豊かな年月を重ね、お元気にお過ごしください。

草取り、趣味の花づくりをご夫婦でしています。いつまでもお2人でお幸せにお過ごしください。



城里社協  
新理事の選任

平成25年6月9日より、城里社協の新たな役員が選任されました。

任期は、平成27年6月8日までの2年間になります。よろしくお願いいたします。

会長	阿久津 藤男
副会長	阿久津 勝紀
副会長	大越 正子
常務理事	小山 一夫
理事	會澤 弘次
理事	寺門 茂雄
理事	加藤木 正道
理事	大澤 若葉
理事	阿久津 春雄
理事	園部 良夫
理事	近澤 治代
理事	小野 昭
理事	阿久津 尚一
理事	小幡 利克
理事	田口 喜一
監事	加倉井 幹由
監事	ト部 吉雄
監事	富田 孝一

目次

- 花しようぶまつり……………1・2
- きらっと生きる……………3
- つくしの四季……………4・5
- 配食サービス……………4・5
- 男塾・送迎事業に参加……………6
- よさこいの仲間たち……………7
- 高次脳機能障害……………7
- 生活福祉資金貸付制度……………7
- 広報ボランティア募集……………7
- しろさと⑦「瑞雲寺龍谷院」……………7
- さわやか元気さん……………8
- 理事の紹介……………8
- 目次……………8
- 編集後記……………8

編集後記

静かだ。窓の外をみると木々の緑をバックに細い糸を垂らした様な雨が降っている。左に目をやると紫陽花の鮮やかな色、紫、ピンク、そして透きとおった青と。しずくに花を震わせながら元気よく咲いている。窓を開けるとサーツという雨音。わずかな間だがじめじめとした周りの空気と時のたつのを忘れさせてくれる。この時もまた良し。

(わ)